

[平成 22 年 8 月 18 日]

目次 P1～2

シリーズ授業づくり講座  
よりよい授業を求めて  
～授業検討会の工夫～  
P3～4通常学級の授業づくりの  
ポイント

## シリーズ特別支援教育 授業づくり講座！

### よりよい授業を求めて ～授業検討会の工夫～

第1回目は、特別支援学校の授業づくりについて、特別支援教育部長 高橋章二が担当します。

### 特別支援学校 研究テーマの調査から

多くの特別支援学校で「授業づくり」を研究テーマに取り上げ、日々実践研究に取り組んでいるということが分かりました。

### 授業づくりの方法 「授業検討会」

それでは、「豊かな授業」「分かる授業」にしていくためには、何をどのように改善していくことが必要なのでしょうか。授業改善をしていくためには多くの方法がありますが、今回は、公開授業、研究授業後に行う「授業検討会」を取り上げて考えていくことにします。

### 授業検討会の現状は？

公開授業、研究授業で実施される「授業」は、多くの時間をかけて作り上げてきています。授業者の立場からすると、実施した授業に対して適切な意見をもらい授業改善につなげていきたいという思いが非常に強くあります。そのような思いに応える意味から、授業後の授業検討会は、形式的なものでなく、建設的な意見を出し合い、授業改善の方向を導き出していくものにしていくことが大切です。授業検討会の多くが、授業者の反省に基づいて、いくつかのポイントに絞りながら検討を行います。意見がなかなか出ないで、進行の先生が苦慮し、参加者の先生方を指名して意見を求める様子に出会うことがよくあります。このような場面に立ち会うたびに、授業検討会が検討ではなく、授業者の反省にとどまっているように感じます。

授業をして本当によかったと、授業者が感じられる、そんな授業検討会にしていく必要があります。それには、授業参観者、つまり授業検討会に参加するすべての教師が自分の考えを授業者に伝えていくことが重要です。だからといって、一人一人に感想を求めたのでは意味を持ちません。そこで、授業評価の観点に基づいたグループ討議を核とした授業検討会を行ってみたいらどうでしょうか。



# グループ協議を核とした授業検討会

グループ協議を取り入れた検討会は、授業評価の観点(授業者から検討をしてほしいと依頼があった事項を取り上げる)に基づいて、よかった点や授業展開・支援の課題、改善点をそれぞれの参加者がグループ内で意見を出し合い、その意見をまとめて発表する方法です。この方法は、付箋に自分の考えを書き、その後、観点を絞って検討を行うというもので、いきなり自分の意見を話すのではないので、負担感も軽減され自分の思いを比較的ストレートに出すことができます。全員が意見を出し合い、全員が検討会に参加できることが大きな魅力といえます。

## グループ協議の手順

①参加者を5～6名程度のグループに分ける。

②授業検討で取り上げる検討の観点を提示する。(多くとも2項目)

③司会、記録を決め検討を開始する。

- 例えば、困難状況場面で児童生徒が主体的に解決方法を考えていたかという観点が出てきた場合(本時の目標の達成に関連して)
- ・参加者は、困難状況場面で児童生徒がどのような行動(主体的に解決しようとした行動や解決に結びつかなかった行動等)をしたのかを解釈を含めて付箋に簡潔に書きます。付箋の枚数は制限せず、気づいたことを時間内で書きます。時間は5分程度とします。
- ・各人が書いた付箋をグループ内で出し合い、同じ行動ごとに集めます。付箋のまとまりの数を無理矢理に調整する必要はありません。次に同じ行動ごとに集めた付箋のまとまりに表題を付けていきます。

④付けた表題を協議の話題として取り上げ、より詳しい解釈をグループ内で行っていきます。

- 例えば、共通化した事項に「児童生徒からの教師への依頼」という表題を付けたとします。
- ・その場合、教師への依頼が困難状況を解決していくための方策になっていたのか、反対に依存としての行動でしかなかったのかなど、事実に基づいて論議を深めていきます。検討時間は20分程度とします。

⑤各グループが発表をしたあと全体で論議を行います。

- ・グループで話し合ったことを、グループの意見としてまとめ全体の場で発表します。その後、各グループから出てきた意見を全体の司会者が集約し、全体論議へと発展をさせていきます。最後に、話し合われた内容を整理し、授業改善の方法として授業者に示していきます。

以上がグループ協議に基づいた授業検討会の方法です。授業検討会で活発なやりとりができ、多様な考え方を学ぶ機会にぜひしていただきたいと思います。

# 通常学級における授業づくりのヒント



片岡一公が  
担当します。

Part 1

時間の感覚に困難があるために見通しが持てず、落ち着いて授業に取り組めない子がいます。目に見えない時間を視覚的に示すことによって、安心して授業に取り組めるよう支援している例を、吉備中央町立豊野小学校佐藤由美子先生から紹介していただきました。

予定や活動を示す際に、時計のイラストを添えることによって、実際の時計との視覚的な一致を図っています。

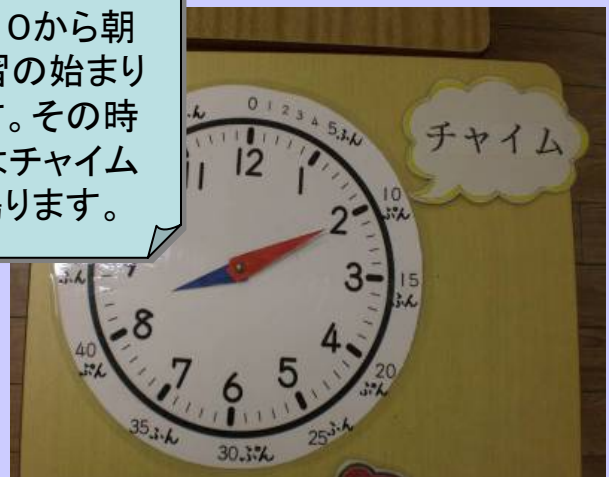
着替えを終える目標の時刻を時計で示しています。



一日の日程を時計とセットにして示しています。



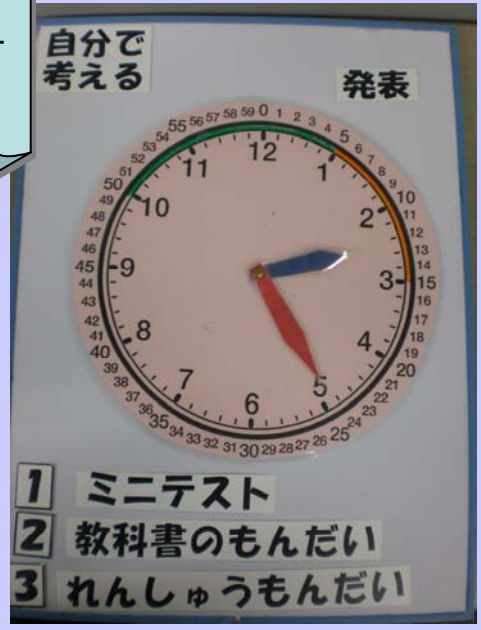
8:10から朝自習の始まりです。その時にはチャイムも鳴ります。







目標の時刻までにすべき活動を、時計とセットにして視覚化しています。



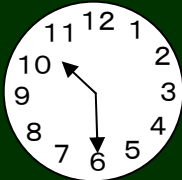
タイムタイマーは赤色の帯の変化によって、時間の経過を視覚化しています。



「時間」という概念を、視覚的に示すことによって分かりやすくしています。

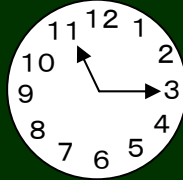
黒板の左右に始まりと終わりの時刻を時計と一緒に示しています。

はじめ



10:30

おわり



11:15